市内のヒバクシャの本を図書館に配置を

加藤 敏彦議員

中央図書館に伝え、対応を考える

教育部長

問 平和行政について、戦争の体験者が少なくなり、平和の大切さを伝えることが年々難しくなっているが、市の取り組みは。

答 毎年8月に「平和祈念式」を開催している。また、8月6日の広島の「平和記念式典」に、市内中学校3年生の24名が参加し、市民の平和への願いを込めた「折鶴」を原爆の子の像に捧げている。

問 8月1日の中日新聞に「被爆者を見捨てるんだわさ」という見出しで、愛西市の被爆者の会の加藤浩さんの体験を孫の愛葉由依さんが本『祖父とあゆむヒロシマ』（風媒社）にして出版したことが紹介された。本市の図書館や学校の図書室に置いて、市民の閲覧や生徒の平和学習に活用する考えは。

答 中央図書館では、愛西市に関連する図書の収集を行っているので、指定管理者に伝え、対応を考えていきたい。中央図書館が、その本を蔵書にすれば、学校貸し出し等を使って平和学習に生かしていきたい。

▲出版された『祖父とあゆむヒロシマ』

問 自衛隊員募集について、国の方針、また市の対応はどうなっているか。

市民から名簿の閲覧をやめてと申し出があった場合、市の対応は。

答 防衛大臣から、自衛官募集等の推進について依頼文書があり、募集対象者名簿を作成し、閲覧している。

DVや虐待被害者への支援措置の申し出については閲覧制限がかかるが、住民基本台帳法では、本人が閲覧台帳に掲載を拒否することはできない。

問 憲法9条に自衛隊を明記する改正について、自民党の古賀誠元幹事長は「必要がない」と明確に述べている。憲法に自衛隊が明記されれば、日米安保条約にもとづき攻撃型任務が出てきたり、自衛隊募集について強力な要請が行われるようになることが心配される。

市長の考えは。

答 市長としてどう考えているか、答弁する立場にない。

その他の質問

●巡回バスの津島市民病院への乗り入れは

●プラスチックゴミの海の汚染とレジ袋の削減は